

うさぎが家にやってきたら…

かわいいうさぎが家にやってきたら、早くふれあい可愛がってあげたいことでしょう。でも、うさぎは初めての場所、初めての人に会って緊張しています。いきなり、なで回したり抱き上げようとしないでください。家にお迎えをしたらケージの中に入れてあげ、しばらくはそっと見守り、少しずつふれあう時間を増やしていきましょう。

最初は、驚かせないように、ゆったりと声をかけながら優しく撫でてあげる程度にして、人の手で触られる事に慣らしていきます。うさぎを抱く時は、しっかりとお尻を支え、うさぎが急に飛び降りても大丈夫のように床に座った状態で行いましょう。

うさぎは強い筋力のわりに、骨が軽くもろくてきています。無理な力がかかると、簡単に折れてしまう事を頭に入れておいてください。

人間と同じように、感情や個性があり、性格もそれぞれに変わります。キレイ好き、人見知り、甘えん坊、やんちゃ、怖がり…実に千差万別です。

あなたの家族となったうさぎをよく観察し、性格をよく理解して環境を整え、接してあげましょう。



うさぎと接する時の注意



むやみにうさぎを驚かせない。

うさぎの近くで大声や大きな物音を立てたり、追いかけて回したり、突然つかんだりして不用意にうさぎを驚かさないようにしましょう。また、【しつけ】と称して叩いたり、罰を与えないで下さい。体罰は臆病で体の小さなうさぎには衝撃が強すぎ、罰を与えることで、人を嫌う神経質なうさぎにしてしまう可能性があります。注意を与える時は、手で床を叩く音を聞かせるなど、うさぎの習性を利用した方法などがあります。



耳をつかまない。

うさぎの耳は、大事な感覚器官であると同時に、体温調節をする毛細血管が集まっている繊細な部分です。乱暴に扱ったり、耳をつかんで持ち上げるようなことは絶対にしないで下さい。



事故に注意する。

うさぎの行動範囲に、危険なものや場所が無いかに注意してあげてください。害となる植物やコンセント・電源プラグ・コードなどはガードしておくか撤去してうさぎがイタズラできないように工夫してください。特に、ケージの外に出している時は、事故に遭わないように注意して観察しましょう。

●たいせつなお願い●

— うさぎは生きています —

うさぎを飼うときはその命が終わるまで、飼い主としての責任と愛情をもって飼育してください。

全てのうさぎが、常に健康で人間の思い通りになるわけではありません。飼い主のわがままから途中で見放したり、世話を怠らないようにしましょう。その為にも飼育する生き物の生態について飼い主がよく理解をしておくことが、とても大切です。

飼育用品は数多く販売されていますが、全てをカバー出来る物ではありません。生き物は予測不可能な行動をするときがあります。

その用品が自分が飼育しているうさぎに合っているか見極め、事故が起こる前に対応してあげるのも飼い主の責任です。

飼育書や図鑑などで自身の知識を深めることや、主治医を見つけておくことも必要です。



Small Animal Products
株式会社 三晃商会
〒562-0035 大阪府箕面市船場東2-3-54
TEL:072-728-3001 www.sanko-wild.com



うさぎとの暮らしを楽しむ

飼い方ブックレット①

うさぎといっしょ

ふわふわの毛並みや、仕草がとても愛らしく一緒に居るだけで癒してくれる、うさぎ達。そんなかわいいうさぎとの生活を始める為に必要な事柄を考えてみましょう。



うさぎは繊細で臆病な面と、大胆で活発な面を合わせ持っている表情豊かな生き物です。その生態や生活をよく考えて生活環境を整え、大切に接すると、愛情いっぱい愛らしい姿をたっぷりを見せてくれる事でしょう。かわいらしく、ほほえましい彼らの世界は奥が深く、ひとくちには言い表せません。

その、ほんの入り口にご案内します…。

SANKO

Y11 0321

<http://www.sanko-wild.com/>

ペットうさぎとは？

体重5kgを超える大型のうさぎから、1kgに満たない小さなドワーフ種、小さな耳や垂れた耳、細面、丸顔、長毛、短毛、様々な体毛の柄…、実に多彩な種類が存在するペットのうさぎ達の世界…。それらの先祖をたどると、みんな【ヨーロップアナウサギ】という地面に巣穴を作って過ごすうさぎから作られた品種です。飼育するうさぎが、どんな特性を持ち、どんな飼い方をすれば良いのかを、よく考えてから迎えるようにしましょう。



うさぎの住まい

うさぎを迎えるために、基本的に必要な用品をそろえます。用品を選ぶポイントは、うさぎが快適に過ごせる事と、できるだけお話がしやすい構造をしているのが良いでしょう。

ケージ選び

飼ううさぎの種類の成長後の大きさを考えて、食器などケージの中に入れる様々な用品を置いて、体が伸ばせるスペースが残るような、できるだけ広いタイプのケージを選びます。

また、うさぎはとてもキレイ好きで、濡れたり汚れたりする事を嫌います。ケージの中は水はけが良く、中の清潔が維持しやすい物が良いでしょう。汚れた状態を放置していると、病気の原因にもなりますので常に清潔にしてください。

ケージは風通しが良い、直射日光の当たらない静かな場所に置きます。暑すぎない・寒すぎない快適な場所で飼育するようにしましょう。暖房の熱やエアコンの風が直接当たる場所に置かないようにします。



床えらび

うさぎの足の大きさや状態を考えた上で、それぞれに合った床を選んであげましょう。清潔な生活環境を保ちやすいスノコ状の床がオススメです。アミ目の大きいものや固い床はうさぎの足に負担がかかり足の病気やケガの原因になるので注意します。



うさぎの足に負担をかけないために。

うさぎの足の裏には刺激を受け止めるための肉球がありません。そのため、足の裏に深刻な炎症(飛節びらん)を起こしやすく、不衛生な環境や固い床は注意が必要です。清潔のために金属のスノコを敷いている場合、床の一部に足に優しい木製スノコや樹脂のマットを敷いたり、乾草を敷き詰める事をオススメします。



※柔らかな毛に覆われたうさぎの足裏

食器

うさぎも水を飲みます。いつでもたっぷりと新鮮な水が飲めるように給水ボトルを用意します。ペレットフードや牧草を入れる食器も必要です。かじられにくい素材で安定感のあるものを選びます。



ハウス

うさぎは一般的に警戒心が強い傾向があり、ケージの中に隠られる場所を作ってあげると、安心して過ごすことができます。新しい環境に慣らすために、ケージの中に隠れ家を用意してあげましょう。



かじり木

一生伸び続ける歯を削るためにうさぎは色々な物をかじります。安心してかじれる木片などを用意してあげましょう。かじる事でストレス解消にもなります。



トイレ

空間の隅に排泄をする習性を利用して、トイレをその位置に設置すると掃除の手間が軽減されケージ内の衛生を保ちやすくなります。トイレはスフコ付きがオススメです。

※トイレの中にはうさぎ専用のトイレ砂などを敷いて使用します。



うさぎの食事

うさぎは完全草食の生き物です。食事は全て植物性で、うさぎの成長に合わせた栄養バランスで与えます。成長期(生後4~6ヶ月)にはカロリーが高めで、すぐにエネルギーになるものを与え、徐々に高繊維・低脂肪・低タンパクな食事に移行させます。

食事の上手な与え方

食事や飲み水は古くならないように、毎日取り替えてあげます。食事はできるだけ新しいものを購入して、鮮度があるうちに使ってしまうように心がけましょう。うさぎは食に対して警戒心が強い傾向があり、同じ製品のペレットや牧草であっても新しい物に変えた時に食べなくなってしまう場合があります。小さい頃から、バリエーションのある味や風味を食べられるように慣らしたり、今あげている物が少なくなってきたら、少しずつ新しいものを混ぜて食べやすくしてあげてください。



ペレット

ペレットは手軽に様々な効能や栄養素が与えられる総合フードです。高繊維質、低脂肪、低タンパクのものが望ましく、年齢や体格に合った成分調整がされているペレットもありますので、飼っているうさぎの年齢や体調に合わせて与えてあげましょう。



牧草

牧草はうさぎにとって大事な食事の1つです。豊富な繊維質を含み、何度も噛む事で伸び続ける歯の全体を削り、消化する過程で腸の状態を整える効果もあります。新鮮な牧草がいつも食べられるようにしておきましょう。

牧草の種類によって栄養価に違いがあります。アルファルファ牧草は栄養価と嗜好性が高く、成長期のうさぎに適しています。イネ科のチモシー牧草は高繊維・低カロリー。全てのうさぎにオススメの牧草です。



副食

うさぎは、嗅覚や味覚が発達している為に、口にできる食べ物を繊細に感じ取っています。単調な食生活は、限られたものしか食べられなくなり、その中でも選り好みをしてしまうような偏食のうさぎを作ってしまう可能性があります。小さい時から色々な味覚を体験させてあげたり、好物となる食品を知る事はとても重要です。乾燥した野菜やフルーツ、野草などの副食品は食事にバラエティを与えるために有効です。基本の食事をしっかり摂れた上で偏食に注意しながら、与えてあげましょう。



うさぎに食べさせてはいけないもの

副食やおやつとして、専用フードや牧草以外のものを与える時は、うさぎが食べても良いものか確かめてから与える様にしてください。【うさぎが食べてはいけないものは、人間の生活のまわりにたくさんある】という事を知り、安全性が判断できないものは与えないでください。また、人間用に加工されている食べものは、うさぎに与えないようにしてください。「ちょっとだけなら・・・」そのちょっとはうさぎにとって、とても危険です。

人間が食べられても、うさぎに毒性がある食べものがとても多いことを知って下さい。食べられる物でも部位によって毒性があるもの、うさぎの体に良く無いものがあります。食べものだけでなく、観葉植物や家の草花の中にも、食べてしまうと危険なものがあります。うさぎはそれが食べても良いものかどうかを自分で判断する事はできません。